

平成28年度 第7回（震災後第71回）
陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「県営栃ヶ沢アパートの「未来」についてはまってけらいん、かだってけらいん」

日時：平成28年10月14日(金) 13:30～15:30

場所：県営栃ヶ沢アパート集会室

参加：40名14団体

資料：下記にアップ

<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

1. 挨拶

菅野民生部長：

未来図会議は通常、市役所4号棟第6会議室で開催しているが、前回、市役所以外で開催したのは、入居1年後の下和野災害公営住宅においてであった。

今回は入居間もない栃ヶ沢アパートで開催することになるが、栃ヶ沢アパートは約300世帯が入居する岩手県内で最も大きい災害公営住宅であり、入居するほとんどの住民が仮設住宅等のコミュニティから、新たなコミュニティに適応することを余儀なくされる。

その面では、市としても栃ヶ沢の災害公営住宅について、どのように取り組んでいくかが大きな課題だと思っている。

今日は、参加者に、コミュニティづくりについて、様々な意見を持ち帰ってもらい、今後のコミュニティづくりに活かしてもらいたいと思っている。

2 内容

(1) 未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

・陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2) 報告

報告 「"県営栃ヶ沢アパートミーティング"の取組について」

岩手県沿岸広域振興局大船渡地域振興センター 復興推進課長 米内敏明氏

報告 「災害公営住宅中田団地自治会の「顔と顔が見える」自治会活動」

陸前高田市民生部保健課 保健課長補佐兼保健係長 尾形良一

報告 「各関係団体から ～こんなことが始まっています & できます～」

(3) グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

・テーマ：栃ヶ沢アパートの居場所づくり、健康づくりを進めるためには

・今日の感想や震災前、もしくは震災後の各地域での取組みなどをお話ししながら、どう仕掛けていけるか未来を語りましょう。

(1) 未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

(陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏)

災害公営住宅は、いわゆるマンションと呼ばれるような建物であり、都会のマンションではなかなかコミュニティづくりが進まないと言われている。私もマンションに住んでいるが、管理組合の理事長時代から住民が健康になるために「高級長屋づくりを目指そう」と住民に働きかけている。国も国民一人ひとりが健康になるためには地域のつながりを強化する必要があると言っている。実は震災前の陸前高田市は女性の平均寿命の高さ、男女の標準化死亡比の低さ共に岩手県1位になっているが、この要因として、住民主体で継続されてきた各種の体操等の地域活動だと考えられる。この公営住宅でもラジオ体操が行われているが、このような機会を増やすなどして、人と人のつながりづくりが進むことが期待されている。

(2) 報告

「"県営栃ヶ沢アパートミーティング"の取組について」

岩手県沿岸広域振興局大船渡地域振興センター 復興推進課長 米内敏明氏

県内一の規模となる県営栃ヶ沢アパートにおいて新たな生活をスタートしていくにあたり、本年4月以降、関係団体とミーティングを重ねながら進んできている。また、先月末からは2棟ある建物を6ブロックに分ける形で顔合わせの会を開催し、少しずつ入居者同士のつながりの機会を設けている。現在、200世帯近くの方に鍵をお渡しすることができており、県内一の規模だが数の多さは逆に力にもなると考えている。

前述のミーティングは主に岩手県と陸前高田市、関係支援団体により構成されており、それぞれのもつ専門性や強みを活かして、住民主体によるコミュニティの再生、支援を必要とする住民へのサポートについて話し合いを重ねている。既にこれまでの入居者同士の顔合わせ会の中から課題が出されており、来客用駐車場、集会場利用ルール、郵便ポスト、行政区の問題、避難訓練の必要性と実施など多くの内容について、今後いかにして解決していくか、具体的に検討を進めていく必要がある。

今後、前述の6ブロックから39名の方々に集まっていただき自治会を作るかどうかという部分から一緒に議論を丁寧に進めているところである。引き続き県としても住民、関係機関とともに栃ヶ沢アパートでの住みよい暮らし方について検討していきたいのでよろしくお願いしたい。

「災害公営住宅中田団地自治会の「顔と顔が見える」自治会活動」

陸前高田市民生部保健課 保健課長補佐兼保健係長 尾形良一

今回の栃ヶ沢アパートでの未来図会議開催に先立って、昨年11月から入居が始まり全130戸と大規模となっている災害公営住宅中田団地の自治会の活動について報告したい。

中田団地では197戸の入居が可能となっているが7月現在130戸、約250名が生活をされている。ペット可の棟があるという特徴があり、市内各地から入居されているため、顔見

知りが少ない状況となっている。高齢化も 38%ほどになっている。横長の建物となっているため、各階 3 班ずつ全 27 班で構成している。自治会は昨年 11 月の入居後、総会を開催し、入会届けを出していただきながら運営している。班長は 2 ヶ月の交代制だが、できるだけ顔と顔をあわせ、声をかけあうことを基本ルールとして進んできている。同時に婦人部や青年部を設け、それぞれの活動による様々な集まる場を仕掛け続けてもらっている。このことは集会所の有効活用にもつながり、別紙の新聞記事にもあるとおり、入居者お互いの強みを活かした活動ができている。女性同士のつながりの大きさ、強さにも助けられている状況である。

今後も自治会活動を運営していく上で、個人情報取扱や各種行事の頻度、自治会外部からの依頼への対応、引きこもりや孤独死の防止、施設運営費の調整、高気密施設ならではの課題など様々な課題が出てきているのも事実である。引き続き、自治会各役員や他自治会とのつながり、行政や社会福祉協議会等との連携や協力をしながら進めていきたいとのことである。

「各関係団体から ～こんなことが始まっています & できます～」

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

先日より社会福祉協議会や健康運動指導士の藤野恵美先生が栃ヶ沢アパート敷地内でのラジオ体操を始められたとうかがっている。今朝も行われていたようだが、どのような形で続けられているのか。

陸前高田市社会福祉協議会 松本 氏

開始当初は社協が住民に声をかけ、期間を決めて行っていたが、最終日に参加者に今後の運営について相談した。すると参加者から今後もやりたいという話があり、ラジカセを「俺が持ってくるから」という方がいたので、その後は住民が自らラジカセを持ってきて、「今からやるよ」という呼び出しの音楽をかけてやっているようだ。社協が運営していた時よりも今の方がむしろ発展しているようである。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

今のラジオ体操はどんな様子か。

参加者のお一人

体操が終わったら日向ぼっこしながらおしゃべりしている。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

まさに「はまかだ」であり、良いと思う。

参加者のお一人

あと、ラジオ体操の際に約束をして、午後に参加者同志で散歩に行っている。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

体操は晴ればやるという形か。平日か土日かは関係なく行っているのか。

参加者のお一人

体操は、雨降り以外は毎日やっている。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

ぜひ市役所に「はまってけらいんかだってけらいん」ののぼり旗がたくさんあるので、使

っていただければと思う。

それでは高田病院の千葉看護師長から、情報提供をお願いします。

県立高田病院 千葉看護師長

看護科で大型の災害公営住宅、栃ケ沢アパート、下和野団地、中田団地、あともう何か所かで、看護出張外来という大げさだが、住民の皆様が集まるスペースを利用して看護師が2名くらいで訪問し、健康相談・指導を定期的に行おうかと考えているところである。

実施する際は市役所や自治会と協議しながら日程等を決めていきたいと思っている。皆さんもご存じのとおり、県立高田病院は平成30年3月に新設移転という予定になっている。こういう場を通して新しい病院の状況などもお話しできれば良いと思う。集まった住民には、病院ではなかなか聞けない事や時間がなくて聞けないことも聞いてもらい、悪くなる前に病院に行っていけるのかなと悩んでいる方々の早目の受診につながれば良いと思う。

地域に根差した看護活動ができる様にとということと、新病院に対する意見やご要望を皆様から聞いて、新病院でつなげていければ良いかなと思う。何かご意見ご希望がある場合は県立高田病院の看護科の熊谷までご連絡いただければ、市役所と福祉関係の皆様にもよろしくお願ひしたい。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

いつもコミセン単位でお邪魔している健康相談会とは別に行き、看護師が訪問するのか。

県立高田病院 千葉看護師長

健康相談会はコミセン単位では今年度12回で、今年は中田と下和野団地にも10月に行く予定になっているので、栃ケ沢アパートは来年度という事になると思う。だが、それとは別に看護師とマンツーマンでという形をとれるので、困っていることとかあればなんでも言ってもらいたい。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

この後は栃ケ沢アパートをこれからどうしたら良いかというあたりを感想でも構わないのでグループで話してほしい。また、栃ケ沢アパートに入居する前に、震災前・震災後も含めていろいろな取り組みをそれぞれ経験していると思うので、そういった所も思い出しながらざっくばらんにお話ししていただきたい。

※グループワーク

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

今日は、初めての試みだったので感想という形で構わない。どんな意見が出たかを一言二言お願ひしたい。

参加者のお一人（グループを代表して）

今日の感想としては、ここ栃ケ沢団地として、ミーティングメンバーとかそういう役割を持って、皆さん動いているというところがすごいなと感じた。だが、そういう役割を持っている方の中でも重圧を感じている方がいるようで、実際にここは施設も立派だし他から見るとすごくうらやましいと言われることもあるそうだが、実際住んでいる方は取材依

頼が多かったり家賃が高かったりなど、実際そういうことをストレスに感じているということもあるようなので、そういう面でのケアもこれから必要ではないかと感じた。

参加者のお一人（グループを代表して）

今日の感想は、こういった「はまかだ」の場所に参加できて栃ケ沢の現状を知ることができたというところがまず良かったという点と、あと、個人の感想としては、これまで関係してこなかった方と話しができたというところも一つの良い成果かなと思っている。

中田団地で悲しい出来事があったことについて、そういった経験も踏まえて、何か対策がなかったかというところと、報道の問題についても、皆さんで1つテーマとしてお話しできても良いと思った。

また、用事がないと声をかけづらいという意見もあった。もともと陸前高田では一戸建てに住んでいた方が多いので、アパート・マンションでの生活がスタートするということで、整備され綺麗な建物だが重厚な壁や重いドアにより、用事がないと中々ノックもできないといった意見があった。挨拶も気軽にできれば良いと思うが、高田の人は自分の家を出るとすぐ車があり車に乗って会社に行くという生活だったので、ドアを開けるとすぐお隣さんと会うことや、その会ったタイミングでの挨拶などに身構えるところがあり、距離感が難しいという話も出た。

保健課蒲生恵美保健師

このグループは竹駒仮設と栃ケ沢仮設から栃ケ沢アパートに引っ越された方と、大隅仮設と高田高校グラウンド仮設から引っ越した人のグループだった。それぞれ仮設にいたころの楽しかった取り組みについてお話をしてもらった。例えば高田高校仮設集会室は1日中開いたので、朝から開けて夕方鍵を閉めるという形でいつでも使える環境であり、朝無料のコーヒーサロンをやっていたそうである。他にも集会室でお茶っこ飲み会や手芸教室などがあったということであった。

栃ケ沢の仮設ではバーベキューや餅つきだとか忘年会、敬老会など季節ごとの行事も盛んにやっていたということであった。大隅仮設では、外でみんなが集まってたき火をしながらお茶っこを外でやっていたということが印象に残った。他にも、屋外でサンマを焼いて食べたり、バーベキューをしたということがあった。みなさんに共通していたことから、取り掛かりやすいのはラジオ体操なのかなという印象を受けた。最後に津波の時の被災のことも話題が出て、やはり避難や防災についての意識というか関心がすごく高いので、防災についてキーワードにすると人が集まるのではないかと個人的には思った。

保健課千葉愛実保健師

このグループは実際、栃ケ沢アパートに住んでいる方、岩手県の米内さん、地域を回ってくださっている心のケアセンター、相談員といったメンバー構成だった。今日の感想としては、中田公営住宅では住民の顔を見ながら回覧を回したりしているというところが、まねできるかなという話があった。岩手県の米内さんには、大船渡のみどり町では自治会を作らないということでスタートした公営住宅があったが、やはり自治会やキーパーソンがいてくれた方がまとまっていくのではないかということで徐々に自治会を作っていく流れになっているという話もしていただいた。栃ケ沢公営住宅の強みとしては、今、それぞれ

まだ皆さんが顔を知らない白紙の状態、縛りがなく、自分たちで自由に決められる環境にあるので、これからいろいろ決められたらなという話も出た。住民同士で何か困ったときは協力していきましょうというあいさつが日常にあり、その声にとても安心したということだった。そのような話しが聞けたのも良かった。

子ども子育て課千葉子ども家庭係長

こちらのグループは社協、復興支援連絡会、朝日のあたる家、高田病院といった、支援をされている方が多いグループだった。その中で栃ケ沢アパートには、まず自治会がなく、ないことに伴い、集会室が使えない、どこに連絡したら良いかわからないという課題があるという話になった。現在、住民同士の顔合わせ会を行った後に自治会の設立準備委員会が立ち上がって、自治会設立に向けての検討を進めているという事だったが、設立までは県や市、指定管理者などのフォローが必要との意見があった。

健康についての課題という事で、足が悪いのに高層階に入居してしまっても集いたくても集えない、集えない方へのアプローチをどうするのかという話があった。中田団地と雇用促進住宅で行っている女性の方が中心になったお茶飲みや、下和野団地での昼食会、麻雀会、あと朝日のあたる家では曜日ごとにプログラムがあり、終了後にお茶を飲んだりカラオケをしたりみんなが自主的に集まって、大体1回15~20名くらいの参加があるというのが参考になるという話があった。そして、栃ケ沢団地で今行っているラジオ体操の活動に対して集会所が解放されることによって集まる場・話す場ができる事になり、住民さんの健康づくりが進んでいくのかなという話があった。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

栃ケ沢アパート住民が多く参加しているグループもあるが、入居されてみての実際の感想や意見をいただけないか。

栃ケ沢団地住民

仮設だと隣近所のいろんな声が聞こえるが、ここだと何も聞こえない。

栃ケ沢団地住民

体操が終わって家に帰れば後はもう人に会うチャンスがないのでさみしい。

栃ケ沢団地住民

道で会っても住民なのか、用事が有って来た人なのか。散歩の人なのか。知らない人と声かけるのも変な感じがする。

栃ケ沢団地住民

相手が挨拶してくれればこちらもする。こちらからして良いものか。住民さんだと分かれば挨拶するが、顔を見ただけでは分からない。

栃ケ沢団地住民

体操を一緒にやっても名前が分からない。住民もボランティアが付けてる様な名札を付けてやったらどうだと提案したらいやだと言われた。名前が分からない女性に対してはいまだに「おばちゃん」と呼んでいる。

栃ケ沢団地住民

ラジオ体操が終わった後に、この集会所がちょっとしたお茶のみとかに使えるようにな

れば良い。

栃ヶ沢団地住民

引っ越したばかりで、まだ落ち着いておらず、自分の家のことで頭が一杯。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

こんなに住民が多くいるのに、人に会わない。挨拶するのも気を使う。会ってもここに住んでいる住民かどうか分からない。そういう現状がある。

大船渡地域進行センター米内課長

ひとつ補足させてほしい、先ほど話が出た大船渡市のみどり町の自治会についてだが、みどり町には3つのグループがある。そして、当初自治会がなかったのは1つのグループだけで他の2つのグループには当初より自治会があった。自治会がなかった1つのグループが自治会の必要性を感じて、後の自治会立ち上げにつながったということである。

地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

環境が大きく変わる中で一人ひとりが様々なストレスに直面することになる。そのストレスと上手に付き合うには、日頃からいろんな人とつながることが大事。全国的には若者の自殺が増える傾向にあったのとは逆に、年配者の自殺が減っているのも、介護保険という制度のおかげで、年配者がいろんなストレスを抱えつつも、結果として「はまってけらいん、かだつてけらいん」をいろんな人とできる環境が整ったからである。熊谷晋一郎先生の言葉で「自立は、依存先を増やすこと」というのがある。ぜひ多くの人とつながる中で、一人ひとりが自立できるまちづくりをこれからも皆様と共に進められたらと思う。

グループごとの感想にあった、住民が大勢いてもお互いに知らない・知りあわないという現実がある。どうしたら知りあえるかということ、栃ヶ沢アパートのラジオ体操を通じて分かったのは、名札を付ければ名前も分かる、では、お茶っこ会も名札付お茶っこ会をやるうとか、自治会が出来たりとか、話し合うとアイデアが出てくる。こういう人が集う場をもっと作っていくと良いと思う。

あと、悲しい出来事についての話題もあった。日本では自殺により、毎年約2万数千人が命を落としているが、間違いだらけの情報が広がっている。実際にNHKまでもが自殺のサインを見逃すなどと言っているが、サインは見逃すものである。私は、千葉県浦安市の自殺対策協議会の委員長をやっているが、いつも、精神科の先生に非常に意地悪な質問をする。「今年先生のクリニックで何人亡くなられたか？」という質問である。精神科の先生と私は人間関係が出来ていて、信頼関係があるから聞く。「岩室先生、今年は小鳥が死んだのを理由に死んじゃった人がいた」とのこと。この先生は素晴らしい先生であるが、その先生でさえも救えない命がある。だから、身内とかご家族でそういう事があったとしても、あなたが見逃したからという事では絶対でない。それだけは今から分かっておいて欲しい。でも実際起こったら、あの時声を掛けておけばと思うかもしれないが、絶対皆さんのせいではない。では、実際誰が弱いかというと男女で言えば、男の方が弱い。男というのはそもそも群れない、プライドの生き物である、名刺と役割がないと人前に出られない、人に言われて変われないからおだてられないといじける。それに対して、女性はどうかということラジオ体操で群れているし、プライドより本能であきらめの生き物という所が

ある。周りに合わせて関係性に学び日常の中に幸せや交流をみつけて、まあいいかと現実を受け入れ続けるところがある。そういう女性に学ばないといけないが、実は、男でも年配者の自殺は減ってきている。

実は介護保険を含めて高齢者に手厚いケアがなされている。高齢者が人と出会うことで、介護保険でヘルパーも来てくれる。ストレスがあったときに、大事なのは人同士のつながり。だから「はまかだ」が非常に大事である。ラジオ体操で参加した住民同士がつながるような場面をいくつも作ってもらえると良いと思う。熊谷晋一郎先生の言葉、「自立は依存先を増やすこと、希望は絶望を分かち合う事」をぜひかみしめていただきたい。

りくカフェ及川氏

りくカフェ通信秋号が出来上がりましたので見てほしい。それから介護予防講座のスマートクラブが始まっているが、今度出張講座、中田団地の方に 11 月 1 日スタートで毎週火曜日、4 回連続で行う。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏

今回は 11 月 11 日、場所は市役所 4 号棟 3 階 第 6 会議室に戻るが、今度は子どもたちにテーマを少しスライドさせながら考えていきたい。

◇次回：平成 28 年 11 月 11 日（金）

メインテーマ（仮）：子どもたちが希望を持ち、元気に育つ陸前高田づくりに向けて
（2016 秋）～子ども・子育て環境と取り巻くそれぞれの現状とこれから～

会場：市役所 4 号棟 3 階 第 6 会議室